

「夢」をもち、「夢」に向かって努力する生徒

原北中学校 学校通信



令和 2年11月20日 第14号

福岡市早良区小田部7-11-1

電話 092-851-3344

発行者 校長 福崎 浩 信



「こころの授業」を行いました・・・

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う臨時休校や、学校行事、部活動の大会等の中止などによる、生徒の心身への影響が心配されています。

福岡市教育委員会は、11月9日、小学校5年生から高校3年生を対象に、11月16日（月）から11月20日（金）の期間で「こころの授業」をするように各学校に通知しました。本校においては、1年生は11月17日（火）、2年生は13日（金）、3年生は16日（月）に実施しました。

目的は、『①「自分が気づいていなかった自分の良さに他者が気づいてくれることで、支え、支えられていると感じさせる」②「今できる楽しいことを見つけて欲しい」、「素直な気持ちを言葉にしてたくさん伝えて欲しい」ということを伝える機会とする』です。

ジヨハリの窓（自己分析に使用する心理学モデルのひとつで、自分自身が見た自己と、他者から見た自己の情報を4つに区分して自己を理解するというもの）を使って、一人一人の違いを感じたり、自分で気づかない長所に他者が気づいてくれることで、「支えられている」「支えている」つながりを感じたり、活動を通じ友だちと自分の考えや気持ちを語ることの良さを感じたりさせていきます。コロナ禍において、何か楽しいことを見つけること、話をすることの大切さを実感させることができた授業となりました。

道は開ける(成せばなる) 「ビジョンを明確にして手段の目的化を避ける・・・」

「手段の目的化」という表現方法があります。

本来の目的を実現するという意義を逸脱して、ある目的を実現するために採用した行動やその方法が、行動する事それ自体を目的として行動するようになってしまうことを指す表現です。形骸化に伴って生じやすいと言われています。

簡単に言うと、次の3種類の系統に分かれると思います。

- ①「手段」自体が「目的」になってしまうこと。
- ②「目的」を見失い、「手段」にばかり目がいってしまうこと。
- ③「手段」だけが残っていて「形骸化」していること。

この3種類の系統を授業に置き換えて考えてみたいと思います。

- ①授業を受けることが目的になっていませんか？
- ②例にならって問題を解くことが目的となって、自ら課題を発見し、見通しを立てながら問題を解くことが置き去りになっていませんか？
記憶したことを再生することが目的となって、記憶したことをつなぎ合わせて新たなものを見いだすことが置き去りになっていませんか？
- ③話を聞いてノートをとることが目的になっていませんか？

「何のための授業だったのか？」となる目的がわからない授業は、たいてい授業を受けること自体が目的になってしまっているといえます。

授業とは、本来は「何かを学ぶため」の手段のほずであるべきと考えます。

手段の目的化を避けるために、「取組指標」と「結果指標」を明確にし、手段そのものが目的になっていないか点検することは、目標達成の第一歩と考えます。

